

STUDENT LIFE

週刊NY生活・アメリカの学校紹介と学生ライフのページ

希望は明日を越えて

米国研修の14人が報告



村瀬二郎記念基金事業で来米 MITやホワイトハウスを訪問

教育支援グローバル基金(本部・東京都)が主催する「ビヨンドトゥモロー」夏季グローバル研修2016サマープログラムの一環として、10日夜、ジャパン・ソサエティのムラセルームで開催された。研修生は、支援団体の米日財団とジャパ・ソサエティの村瀬二郎記念基金の関係者やホストファミリー80人以上と米国研修の印象や今後の抱負などを話し合った。



挨拶する村瀬悟さん

支援グローバル基金の理事で事務局長の坪内南さんが、事業内容を説明した後、大使が乾杯の音頭を取り、高校・大学生14人が英語で自己紹介した。また代表3人が自らの生い立ちや思い、将来の抱負を発表した。

今年にはボストンとニューヨークに加えてワシントンDC研修が加わり、オバマ大統領の義妹のマーヤ・ストロさんの尽力でホワイトハウス訪問が実現した。長野県上田高校2年の荒川未菜子さん(16)は「MITで話した大学生が、私とあまり年がかわらないのに私の知らない世界をいっぱい見せてくれて尊敬した。大学では国際関係を勉強したい」と話していた。東同事業は2011年、東

日本大震災を機に次世代のリーダーシップ養成を意図して開始され、現在は日本全国の学生を対象に運営。約300人の応募の中から35人が選ばれ、今年4回研修が行われる。今回はその一環。日米両国の架け橋として尽力した村瀬二郎さんが亡くなった14年にジャパン・ソサエティと米日財団の協力により、村瀬二郎記念基金が発足。昨年から「村瀬二郎記念奨学事業」の一環として開催されている。

(小味かおる記者、写真も)